

①兵庫と世界をつなぐ外国人材（その2）

外国人県民が、まわりの協力、支援を得ながら地域に溶け込んで生活し、地域社会や産業の担い手となって、その多様性や自国とのパイプで兵庫の活性化や発展に役割を担っている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 欧州出身の20代後半の男性。日本の大学に留学し、マーケティングを学んだ。大学院修了後、播州織の製造会社に就職し、今は播磨地域に定住している。
- 日本のアニメが大好きで、一度日本で暮らしたいと思っていたこともあって、進学先に日本の大学を選んだ。日本のアニメについては、日本人よりも詳しいかもしれない。
- 留学中に、アニメだけでなく、日本の伝統工芸品の素晴らしさに魅せられ、日本で働き、暮らし続けたいと思うようになった。

<就職>

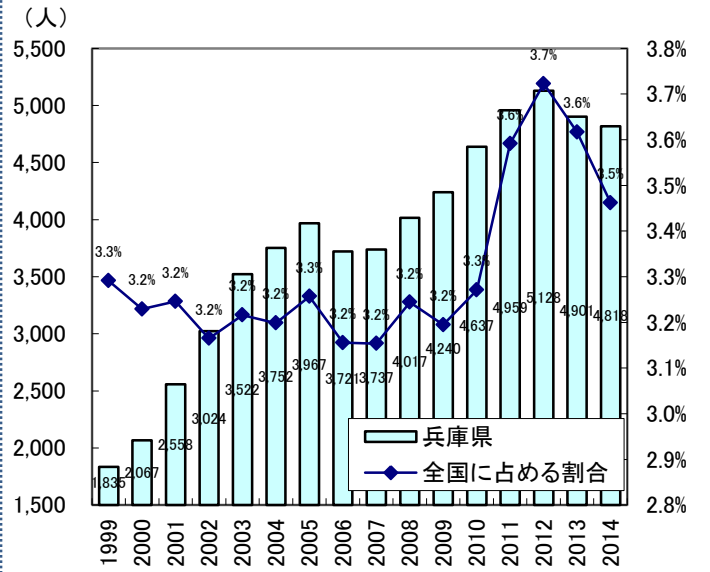
- 就職に当たっては、留学生就職サイトに登録し、自己アピールや就きたい仕事について話す動画を掲載した。学んできたマーケティングの知識が会社の戦力となり得ること、日本のものづくりに関わる仕事がしたいことなどを日本語と母国語で発信した。また、留学生向けのインターンシップにも参加した。
- 動画を見たいいくつかの企業から連絡があり、面接を受けた。その中で、今働いている会社の採用担当者と話す機会があった。播州織については、以前にハンカチをもらったことがあり、先に糸を染めてから織り上げる先染め織物だということは知っていた。会社を訪問した時に、縦糸と横糸が重なり、さまざまな表情を見せる布に織りあがっていく様子を見て、その色合いに感動し、美しく肌触りの良い播州織の将来性を感じた。
- 会社も、海外のマーケティングにさらに力を入れたいと思っていたようで、内定をもらうことができた。

<しごと>

- 毎日の仕事では、欧州をはじめ、海外のバイヤーとやり取りをすることが多い。海外の見本市に出品したり、高級デパートの催事で販売したりすることで、海外での販路をさらに拡大しようとしている。
- 兵庫県と私の出身国の自治体とが姉妹提携しており、そのルートで海外のプロダクトデザイナーから現地の嗜好に合わせた製品の助言をもらっている。
- 先月は、フランスに出張して、販売店やアパレルメーカーに播州織を売り込んだ。出張中、パリのあるブランドのデザイナーにサンプルを見てもらうことができて、かなり気に入ってもらえた。
- そのブランドは、パリコレクションにも出品しており、作品の試作に播州織を使いたいのので、送ってくれと依頼が来たところだ。来年のパリコレに播州織を使った服が出品されるかもしれない。採用してもらえるよう、会社の人々と協力して、選りすぐりの製品を送りたい。

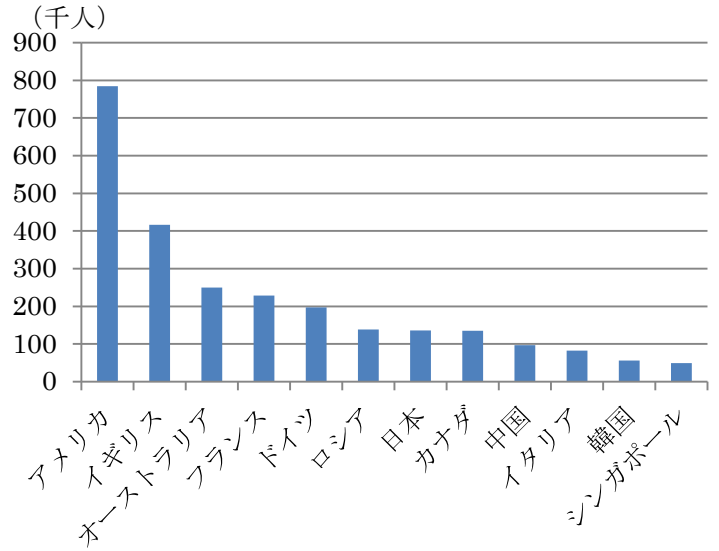
現状や課題

【外国人留学生数推移】



(出典：厚生労働省「外国人の雇用状況の届出状況」を基にビジョン課作成)

【留学生受入数国際比較】



(出典：OECD「OECD.Stat」およびUNESCO「Global Flow of Tertiary-Level Students」を基に県ビジョン課作成)

見えてきた兆し

【留学生インターンシップ】

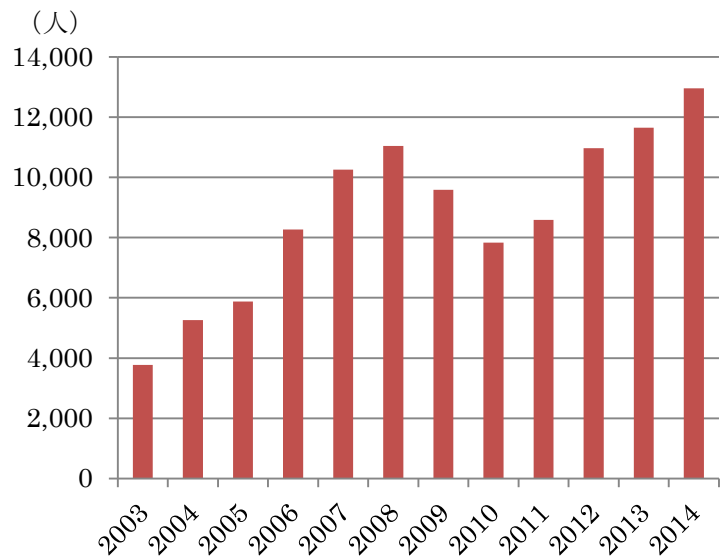


インターンシップの事前研修 (ビジネスマナー研修) の様子

(出典：大学コンソーシアム神戸 HP)

【留学生の日本での就職状況 (国)】

○在留資格を留学生から就職に変更した人数の推移



(出典：法務省「平成26年における留学生の日本企業等への就職状況について」を基に県ビジョン課作成)

【専門家等の意見】

○留学生は、語学力のみならず、ブリッジ人材になる素質を持っており、最大限に活用していく必要がある。